

第55回横浜市地域まちづくり推進委員会会議録

日 時	令和5年3月7日（火）14時00分から16時15分まで
開催場所	市庁舎18階共用会議室みなと6・7 <リモート併用>
出席者	<p>【委員】 名和田委員長、室田副委員長、大野委員、片岡委員、杉崎委員、関口委員、高橋委員、三輪委員</p> <p>【臨時幹事】 松本副区長（神奈川区）、西嶋土木事務所長（神奈川区）</p> <p>【地域】 白幡上町自治会 役員2名</p> <p>【事務局】 榊原部長、萩原担当課長、武智担当係長</p>
欠席者	無し
開催形態	公開（傍聴7人）
議 事	<p>(1) 地域まちづくり組織及びプランの認定について 組織：白幡上町まちづくり推進委員会 プラン：白幡上町防災・防犯まちづくりプラン</p> <p>(2) 地域まちづくりの推進状況について ～報告書・評価書・見解書（令和元年度～令和4年度）の作成に向けて～</p>
報 告	<p>(1) ヨコハマ市民まち普請事業の進捗状況</p> <p>(2) 第11回横浜・人・まち・デザイン賞の募集</p> <p>(3) 地域福祉保健計画等に基づく市民主体の身近な施設整備</p>
決定事項	<p>【議事1】「白幡上町自治会」の地域まちづくり組織認定及び「白幡上町防災・防犯まちづくりプラン」の地域まちづくりプラン認定を「了承」する。</p> <p>【議事2】なし</p>
<p>【議事1】地域まちづくり組織・地域まちづくりプラン認定について（神奈川区） （地域）資料説明 地域の代表者が説明を行った。</p> <p>（松本副区長） 白幡上町は、坂道が多く、開発時期も古く、狭隘な道も多い。建て替えもあり、住民も入れ替わっている。課題について説明があった通りで、まちのみなさんで共有し活動の中でプランにまとめ上げてきており、区役所としても応援してきた。プラン認定していただき、今後の活動につなげていきたい。</p> <p>（西嶋土木事務所長） ハード、ソフト面両方のアプローチから自分たちのまちを安全安心にしていこうという気概が伝わってきた。時代の流れに沿ったSNSを使うなど先進的な取組をされている。アンケートの中でも道路に関する関心が高いという事で、今までもカーブミラー等公道については、相談をいただいて対応してきた。私道については私道整備助成制度があるので是非活用いただいて、より良いまちづくりを目指していただければと思っている。</p> <p>（片岡委員） 担当課に確認だが、行政側は地域の課題をどのように認識しているか。</p> <p>（地域まちづくり課） 地域まちづくり課が担当課としてプラン策定を支援してきたが、防災に特化した活動となっていたので、防災まちづくり推進課も入ってプランを共有している。今回プラン認定いただければ、次年度からは</p>	

防災まちづくり推進課が担当となり、不燃化推進の助成金も活用しながらまちづくりを進めることとなる。引き続き担当課と地域と連携して協力しながら進めていきたい。

(神奈川区役所)

白幡上町は不燃化推進地域に指定されていて、延焼性が高く、狭い道や丘があるため、逃げやすさに課題がある。

公道については土木事務所と相談して対応を検討している。一方で地域の皆さんが日常的に通る道や地域防災拠点に繋がる道は私道もあるため、市から助成金の紹介等をしつつ課題を解決できたらと考えている。

(片岡委員)

行政側も地域も双方が良い方向になるモデルになればよいと思う。

(三輪委員)

以前からこの地区に関わりがあったため、高低差があり、道が狭いことは認識していて、そうした中で出張型の防災訓練があるのは良いと思う。自助力を高め、共助力も高めていくというような活動を引き続き進めていっていただきたい。

数年前からこの地区にある白幡幼稚園と神奈川区のこども家庭支援課と協働で、共助力向上のプロジェクトに関わってきた。防災に関して保護者や幼児への情報発信や園の先生方も防災について学んでいる。区でもそれぞれの課が別々に動いていたが、せっかく地域まちづくりプランとして認定されて組織として活動するのであれば、幼稚園ともタッグを組んで活動を広げてもらいたい。大きな敷地があるので、防災訓練を園庭で行うだけでなく、日常的な防災の共助力を向上するイベント等を是非進めていただくよう、区からもフォローをお願いしたい。

(地域)

園長さんが防災に関して積極的で、先生たちの意識向上に関心を持っている。園庭での訓練だけでなく、色々と一緒に進めていこうとお話いただいているので、ご意見いただいた内容も意識しながら、これからも取組を進めていきたい。

(関口委員)

幼稚園、保育園と一緒に訓練をできるのは良い。もちろん小学校と連携している点も評価できる。昼間だけ地域にいる人、夜だけの人、平日、土日にいる方、全ての人が網羅できると良いと思う。説明の中で大学生の方たちについて言及されていたが、活動に巻き込む工夫をしているか。

(地域)

地域でもそこが課題だと考えていて、子ども会との連携は密であるが、中学高校となると、行事に参加しなくなる。神奈川大学の学生が住んでいるアパートについては、ゴミの問題もあつたりして大学に申し入れたりしている。大学生にもまちのイベントに参加してもらって、繋がりをもっていきたい。現在は、コロナ禍でお祭りも開催できないが、そのあたりを今後考えていきたい。

自治会会員以外にもプラン、アンケートを配ったが、紙媒体で反応があまりなさそうな人たち向けにアンケートは2次元コードから回答できるようにするなど、若い世代に少しでも興味を持ってもらえるようにした。ご意見いただいたことを踏まえて進めていきたい。

(室田委員)

傾斜地が多く、細い道、階段も多い中で、歩行の安全性が問題になっているかもしれないと意識しながら聞いていたが、防災という切り口で活動を進めるのは良いと思う。

活動の継承ということで、新規に居住され始めた方にも活動に参加していただくことが重要だと思う。今後の活動の方向性を教えてほしい。

(地域)

戸建て住宅の方には自治会に入ってもらいたいよう声掛けしている。

山坂が多いせいか、足腰の元気な方は多いが高齢化は進んでいる印象。役員の担い手には苦慮はしている

が、担い手とは言わず、ひとまずは気軽に活動をしてもらいたいと思っている。
昨年から地域カフェをオープンしたが、赤ちゃん連れの方も来ていただいた。「0歳から90歳まで」をキャッチフレーズにして高齢者だけの集まりにならない活動となるよう意識している。
楽しい活動も入れながら、防災にも意識を持ってもらいたいと思っている。

(大野委員)

カフェは誰が主体で運営されているのか。始めることになったキッカケについて聞いてみたい。学生がアルバイトやボランティアで参加してもらえると、若い人の地域活動の参加の場にもなるのではないかと考えた。

(地域)

地域カフェの活動は、2年前くらいに地域ケアプラザから紹介されたが、最初は他の活動で手いっぱいだったので、どうしようかと躊躇していた。それでも他の町でも取り組んでいるということで、面白そうだからやってみようと、去年の4月からカフェを始めた。

運営は8割が役員で、スタッフ(15人登録)をしている。月1回の運営のため、そこまで負担ではない。自治会広報誌「しらかみ」やホームページでスタッフ募集を出したら、妊娠中の若いお母さんや、3年前に引っ越してきた方で、是非やりたいと言ってくれた方々が中心となって、わいわいとやっている。のぼり旗を作ろうとか、今年はお揃いのエプロンを作ろうとか自由闊達に年代の差を乗り越えて、活動が盛り上がっている。

先ほど大学生の話も出たが、地域ケアプラザの方が、神奈川大学内でも地域カフェをやりたいということで、このまちのカフェにも見学に来ていただいた。定常的に大学生が来てというのはなかなか難しいが、段々と地域に広がっていて、先月は48人お客さんが来てくれた。

(高橋委員)

他の地域のフラッグシップになるような良い活動だと思う。

スマートフォンが使えない高齢独居のような方へのフォローは何かしているか。

(地域)

災害時の要援護者については、毎年自治会で集約していて、手助けが必要な方は申し出てもらっている。対象者には防災フェアやイベントのときに黄色いハンカチを渡して、役員や民生委員がフォローするようにしている。

最近では3Gが使えなくなることで、高齢者の中でも徐々にスマートフォンに切り替えが進んでいる。スマートフォンを利用できない方は課題ではあるが、新たに導入予定のアプリでは、スマートフォンではない携帯電話でも使え、「見守り」や「助けて!」の機能等、確認手段があるので、そうしたものを活用しながら活動していきたい。

(高橋委員)

そのような活動内容はプランの中に含まれているのか。

(地域)

プロジェクトNo. 6「日常的な地域防災活動の取組」で防災情報発信ツールの充実の項目が関連する部分だが、プラン認定の書類を市に提出した後に新しいアプリの情報を入手したため、現時点ではプランに入っていない。

(名和田委員長)

自治会そのものが、地域まちづくり組織になることは条例上問題ないと思う。

白幡上町自治会を地域まちづくり組織、白幡上町防災・防犯まちづくりプランを地域まちづくりプランに了承することでよいか。

(委員一同)

異議なし

【議事2】地域まちづくりの推進状況について

～報告書・評価書・見解書（令和元年度～令和4年度）の作成に向けて～

（事務局）
資料説明

（片岡委員）

グループ数、まち普請の整備場所の配置図等のデータを数年に1回にまとめるのではなく、随時更新してオープンデータを公開できるようにするべきではないか。

地域まちづくり推進条例ができたのはiPhoneが発売されるより前であり、社会の状況は大きく変わっている。今望ましい支援の仕方、体制がどうあるべきかを考えた上で、足りてない点を考えるという見方も必要だと思っていて、制度の改善という観点での考え方と、現在の理想と現実を比較した考え方は異なったものになると思うし、両方の視点が検討には必要なかなとも思っている。

（事務局）

報告書は4年に一度しか作成していないが、毎年を取組状況のデータ自体は内部で整理している。以前にも片岡委員からは、まちづくりに関わるオープンデータ化のご意見をいただいているが、この4年間では対応できていなかった。来年度は、いただいた意見も踏まえてしっかりと検討していきたい。

平成17年に条例が制定されてから、時代背景や市民の活動レベルも変わっている中で、条例の見直しなのか、何を抜本的に変えていくべきかも考えなければいけない点だと思っている。

（名和田委員長）

空地、空き家問題が色々なところで語られているが、地域まちづくり推進条例の仕組みの中でどのように扱う事ができるのか。

（事務局）

空き家がどう増えているかは、地域で把握する必要があると思うが、その上で空き家をどう活用していくか、例えば地域まちづくりプランに書けることもあると思っている。

地域まちづくりプランとはなにか、何のために策定するのか、地域がプラン策定の活動を始める段階で、市職員も「プランとはこういうものだよ。」ということを示せていないと感じているところで、空き家の改善が地域の課題解決に一番必要なものだとなれば、それをどう地域で合意するためのプランにしていけるのか、その作り方、考え方を持つことも必要なことだと感じている。

（室田委員）

ルールづくりに取り組む地域まちづくりグループについて、この4年間で新規登録が0であるという事は、活動のニーズが変わってきているということがはっきり出ている。以前はせっかく作った良好な環境を保全するというのが主眼としてあって、保全するまちづくりだった。ただ今はそのような建物が老朽化して、空地、空き家が増えてきて、保全だけしていればいだろうという時代ではなくなった。

私の意見としては、抜本的に改善するということが迫られていて、ニーズの変化に早いうちに手を打たないといけない。

あまり遅いと地域によっては復活できなくなるかもしれない。横浜市内では多くないかもしれないが、郊外地域ではそうした地域が出てきている。

ルール作りも良いが、それ以外のプランも充実して行って、地域の課題解決、魅力づくりを地域まちづくりとしてやっていくとするならば、それに相応しい様々な支援を考えないといけないということになるかもしれない。

防災以外のプランでは、策定後のプランに基づく活動が行政と住民の協働で取り組めないとなると、地域側の選択メニューを増やしていかないとニーズに応えられなくなってきているのではないかと。どういうことが支援の在り方として必要かは地域によって異なるが、詳細に検討していくことが必要。プランができたのに、ほったらかしではもったいない。

防災だけで上手くいくかというところでもない。色々な地域の問題を集めて、それにはどんな支援が必要かを考える必要がある。

(名和田委員長)

今の時代に合っているかを抜本的に考えなければならない。

(杉崎委員)

地域のニーズが明らかに住環境保全ではないところに主眼を置いている中で、対象地域の課題をどんなものまで地域まちづくり推進条例で受け止めるかという議論が必要。都市整備局としてどこまで対応するか。また、地域まちづくりに取り組む中で、合意形成をすることがハードルになっている。

比較的今の地域まちづくりの在り方として、(初めから整備のプランありきではなく)まちづくりの方針があって、少しずつ緩やかにアクションしながら活動を周知していく方法もある。まちづくりのプロセスも再考しなくてはいけない。

もう一点、地区計画、建築協定のような規制が厳しいものは何とかした方がいい。

それから、まちづくりコーディネーターとして活動されている片岡委員に意見を聞きたいところだが、専門家派遣の今の状況、仕組み等の中では、次世代の人が仕事として地域まちづくりに関わるのが難しいのではないか。

(片岡委員)

まちづくりコーディネーターの派遣支援の対価は見合っているのか。先日、コーディネーターで集まる機会があったが、制度改善に向けてコーディネーターから提案してみようかという意見もあった。

コーディネーターが、横浜市の地域まちづくりに関わり、自分の時間を投資するだけの魅力があるか。地域の魅力はもちろんだが、新しい地域の仕組みを地域と横浜市が一緒になって作ろうとしているとか、やりがいがあるものが横浜全体としてフィールドが提供できているかが重要だと思う。

これからの魅力的な地域まちづくりがどうあるべきかを考えていかないと、若い支援者が関わりたいと思えなくなってしまって、結果的に支援体制も尻すぼみになってしまう。

(三輪委員)

条例を見直す場合、都市整備局が管轄するまちづくりと、他局が行うまちづくりに整合性が必要かどうかも含めて、庁内の調整も必要だと思う。

コーディネーターの対価については、市民協働コーディネーターなどもあるが、都市整備局だけでなく色々な局にまたがっていると思うので、一律に上がっていかないといけないと思う。

次年度が良いのかは分からないが、改めて「まちづくりとは何か」をコーディネーターや登録団体、活動の展開に悩んでいるグループなど、様々な立場の人に話を聞いてみてもいいのかなと思う。

(事務局)

現状の地域まちづくりプランは、策定後の施設整備を意識するため、合意形成率を意識して策定してきた。委員からの指摘のとおり、まちづくりの変化によって、「地域にとってのまちづくりプラン」とは何かを都市整備局としてではなく、横浜市として考える視点が必要であると思う。

(片岡委員)

これまでの報告書は地域まちづくり内の動向をまとめていたが、全体の社会動向も踏まえた内容にするとよいと思う。

(室田委員)

資料で提示されている社会動向がとてもマイナス要素ばかり。問題課題を出すうえでマイナス面が目立ってしまっていることがわかるが、プラス面もあるはずで、しっかり盛り込んでほしい。

(事務局)

これまでの報告書は、地域まちづくり推進条例に基づく取組状況についてのみ掲載してきた。今回は転換点と捉えて、前提条件をしっかりと整理した上で今後の施策のあり方を検討していく。

【報告1】 横浜市民まち普請事業の進捗状況

(事務局)

資料説明

(三輪委員)

予算が付くのであれば高知の「こうちこどもファンド」のように、こどもたちに提案させるようなことをやらせるのも面白いのではないか。

(高橋委員)

横浜市の中期計画に基づいてまち普請事業が予算拡大したことを、チラシなどでもっとアピールした方がよい。市民の人が広報誌などを見たとき、中期計画の施策に基づいて着実に取り組んでいることが伝わる。

【報告2】第11回横浜・人・まち・デザイン賞の募集

(事務局)

資料説明

【報告3】地域福祉保健計画等に基づく市民主体の身近な施設整備

(事務局)

資料説明

以上